

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	解剖学Ⅰ(骨)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 解剖学を学ぶ意義・目的を理解できる。 2. 人体の概観を説明できる。 3. 体表解剖、目印、基準線を説明できる。 4. 骨の構造と機能について説明できる。 5. 体幹、上肢、下肢の骨の名称・構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学を学ぶ意義・目的を考え、人体構造を把握したうえで、全身の骨の名称、構造、機能を骨模型・体表解剖・模写などの手法を用いて理解する。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 骨単	使用器材	人体骨格模型、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	解剖学総論 解剖学とは、学ぶ意義・目的、分類、手法						
第2週	人体の概観、体表解剖・目印・基準線、骨の構造と機能、骨の連結						
第3週	上肢の骨 上肢概観、上肢帯の骨(肩甲骨、鎖骨、胸骨)						
第4週	小テスト1(総論～上肢帯の骨) 授業アンケート1						
第5週	上腕骨、橈骨と尺骨						
第6週	橈骨と尺骨、手根、手指						
第7週	小テスト2(上肢帯、上腕骨、橈骨と尺骨、手根骨と手指) 授業アンケート2						
第8週	下肢概観、下肢帯(腸骨・恥骨・坐骨)*骨盤						
第9週	大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨						
第10週	小テスト3(下肢帯、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨) 授業アンケート3						
第11週	脛骨、腓骨、足根骨、足指						
第12週	小テスト4(下肢帯、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、足指) 授業アンケート4						
第13週	体幹の骨格、椎骨、脊柱の構造、頸椎						
第14週	胸椎、腰椎、仙骨、骨盤						
第15週	小テスト5(頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、骨盤) まとめ 授業アンケート5						
授業外 学習指示等	授業進行に沿い、模写を繰り返し、バランス良く、見ないでもできるようになりましょう。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	解剖学Ⅱ（筋）	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 骨格筋の概観を把握でき、骨格筋の形状の分類ができる。 2. 骨格筋の構造と機能が理解できる。 3. 腱および筋の補助装置が理解できる。 4. 上下肢・体幹の筋を模写できる。 5. 上下肢・体幹の筋の起始・停止・作用が言える。 6. 主要な筋の神経支配が言える。			評価方法 期末試験 60% 小テスト 40% （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	人体構造を把握したうえで、筋の構造と機能、筋の分類と形状、全身の筋の名称、起始・停止、作用、神経支配を筋模型・体表解剖・模写などの手法を用いて学ぶ。						
教科書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 肉単	使用器材	人体骨格模型、筋模型、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	骨格筋の概観、骨格筋の形状の分類						
第2週	骨格筋の構造と機能、腱および筋の補助装置						
第3週	上肢帯の筋						
第4週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第5週	前腕の筋、手の筋1						
第6週	前腕の筋、手の筋2						
第7週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第8週	下肢の筋、骨盤と殿部の筋						
第9週	大腿の筋						
第10週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第11週	下腿と足部の筋1						
第12週	下腿と足部の筋2						
第13週	小テスト、前回までのまとめ、授業アンケート						
第14週	体幹の主要な筋						
第15週	まとめ 授業アンケート						
授業外 学習指示等	授業進行に沿い、模写を繰り返し、バランス良く、見ないでもできるようになりましょう。主要な筋は英語名もいえるようになりましょう。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	運動学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	河元 岩男	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 体幹の運動について理解できる。 2. 姿勢について理解できる。 3. 歩行について理解できる。 4. 運動学習について理解できる。			評価方法			
授業概要	運動学で学んだ四肢の運動に加え体幹の運動を理解し、姿勢・歩行へと応用していく。また、運動学習の基本理論を学ぶ。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎運動学 筋骨格系のキネシオロジー	使用器材	骨模系、筋模系、ビデオ				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	頸椎の運動1 頸椎、椎骨動脈						
第2週	頸椎の運動2 頸神経、頸部の筋						
第3週	小テスト1 前回までのまとめ 授業アンケート						
第4週	胸椎と胸郭の運動1 胸郭、胸郭を構成する関節						
第5週	胸椎と胸郭の運動2 胸郭の動き、胸郭の筋						
第6週	小テスト2 前回までのまとめ 授業アンケート						
第7週	腰椎の運動 腰椎、関節と靭帯、筋の働き						
第8週	姿勢 姿勢とその制御、重心、立位姿勢						
第9週	小テスト3 前回までのまとめ 授業アンケート						
第10週	歩行1 歩行と運動学、歩行周期						
第11週	歩行2 歩行の運動学的分析、運動力学的分析						
第12週	歩行3 異常歩行						
第13週	小テスト4 前回までのまとめ 授業アンケート						
第14週	運動学習 学習と記憶、運動学習の緒理論						
第15週	総まとめ 授業アンケート						
授業外 学習指示等	授業進行にあわせ運動学、解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	運動学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 運動学とその領域について把握できる。 2. 生体力学の基礎を理解できる。 3. 運動器の構造と機能を理解できる。 4. 四肢と体幹の運動を理解できる。			評価方法			
授業概要	ヒトの四肢および体幹の運動の捉え方、表現方法を把握し、それぞれの関節構造・機能、筋の働きを学ぶ。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎運動学 筋骨格系のキネシオロジー	使用器材	骨模系、筋模系、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	運動学総論 身体運動学とは、骨運動と関節包内運動、						
第2週	生体力学の基礎 モーメント、重心、身体とてこ						
第3週	小テスト1 前回までのまとめ 授業アンケート						
第4週	運動器の構造と機能1 骨の構造と機能、関節の構造と機能						
第5週	運動器の構造と機能2 腱および靭帯の構造と機能、骨格筋						
第6週	神経系 末梢神経系、シナプス、中枢神経系						
第7週	小テスト2 前回までのまとめ 授業アンケート						
第8週	四肢と体幹の運動 上肢帯と肩関節での上腕の運動						
第9週	肘関節と前腕の運動						
第10週	手関節と手の運動						
第11週	小テスト3 前回までのまとめ 授業アンケート						
第12週	下肢帯と股関節の運動						
第13週	膝関節の運動						
第14週	足の関節と足の運動						
第15週	小テスト4 前回までのまとめ 授業アンケート						
授業外 学習指示等	授業の進行に併せ解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	理学療法評価学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にて患者の評価・検査経験を有する	担当	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 評価の基礎を理解する。 2. 評価に必要な基本情報を理解する。 3. 意識障害・全身状態の評価を理解し実施できる。 4. 形態測定を理解し実施できる。 5. 関節可動域検査を理解し実施できる。 6. 得られた結果を解釈できる。			評価方法			
授業概要	評価の目的、意義、過程を理解し、意識障害・バイタルサイン・形態測定・関節可動域検査を実施できアセスメントの考え方を学ぶ。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション基礎評価学	使用器材	ベッド、映像機器				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	評価の基礎 リハビリテーション医療における評価、過程、対象、評価の構成要素						
第2週	意識障害の診かた、バイタルサイン1 循環器、呼吸器						
第3週	小テスト1 前回までのまとめ 授業アンケート						
第4週	形態測定1 身長、体重、四肢長						
第5週	形態測定2 周計						
第6週	小テスト2 前回までのまとめ 授業アンケート						
第7週	関節可動域検査1 正常な関節可動域、最終域感、手順						
第8週	関節可動域検査2 肩甲帯、肩関節						
第9週	関節可動域検査3 肘・前腕、手・手指						
第10週	小テスト3 前回までのまとめ 授業アンケート						
第11週	関節可動域検査4 股関節、膝関節						
第12週	関節可動域検査5 膝関節、足関節						
第13週	関節可動域検査6 頸部、胸腰部						
第14週	小テスト4 前回までのまとめ						
第15週	総まとめ 授業アンケート						
授業外学習指示等	授業の進行に併せ運動学、解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	病理学/内科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にて内科系疾患の治療経験有り	担当	柴田 和生	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。 病気に関わる専門用語の定義が理解できる。			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている[内科学]「病理学」の基礎的知識を理解する。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			定期試験 80% 小テスト20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	疾患別看護過程の展開 なるほど納得病理学 電子辞書	使用器材	プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	細胞傷害(内因と外因・医原病・細胞の死・老化)						
第2週	細胞傷害(代謝異常と細胞傷害・ビタミン欠乏症)						
第3週	細胞傷害(環境ストレスへの組織・細胞の適応)						
第4週	先天異常・染色体異常・先天奇形						
第5週	循環障害(血栓症・塞栓症・梗塞・出血)						
第6週	循環障害(充血・うっ血・浮腫)						
第7週	炎症(急性炎症・慢性炎症・創傷治癒・異物処理)						
第8週	炎症(創傷治癒・異物処理)						
第9週	免疫とアレルギー(免疫細胞・液性免疫・細胞性免疫)						
第10週	免疫とアレルギー(アレルギー反応・免疫不全)						
第11週	感染症(病原体・感染経路)						
第12週	感染症(感染予防)						
第13週	腫瘍(腫瘍とは・上皮組織腫瘍・非上皮組織腫瘍・良性腫瘍・悪性腫瘍・転移の様式)						
第14週	腫瘍(癌の発生機序・宿主に対する影響・治療)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・老人保健施設で34年の勤務経験	担当	柴田 和生	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	リハビリテーション医学の理念を説明できる。 障がいについて説明できる。 リハビリテーション医学の方法論を説明できる。 リハビリテーション医学の体系を説明できる。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学について理解し、その基礎学・治療学・運動学・アプローチ等について学習する。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			定期試験 80% 小テスト20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	目でみるリハビリテーション医学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	リハビリテーションの理念と組織						
第2週	障害の概念と重要						
第3週	リハビリテーション医学について						
第4週	リハビリテーションの流れ						
第5週	障害学						
第6週	リハビリテーション医学の基礎学(運動学)						
第7週	リハビリテーション医学の基礎学（機能回復の生理学）						
第8週	リハビリテーション医学の基礎学（運動治療学）						
第9週	リハビリテーション医学の実際（目標指向的アプローチ）						
第10週	リハビリテーション医学の実際（リハビリテーション診断学）						
第11週	リハビリテーション医学の実際（リハビリテーション治療学）						
第12週	リハビリテーション医学の実際（リハビリテーション治療学）						
第13週	各種疾患のリハビリテーション						
第14週	各種疾患のリハビリテーション						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	解剖学Ⅳ（内臓）	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 内臓の各臓器の形態と各部位の名称を理解・説明できる。 2 内臓の機能解剖学的意味合いを理解・説明できる。			評価方法			
授業概要	人体における内臓・脈管系について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト解剖学 プロメテウス解剖学アトラス(胸部・腹部・骨盤部)	使用器材	パソコン・解剖学DVD・配布資料				
週	授業項目 内容					実施結果	
第1週	解剖学内臓・血管系総論(PT・OTビジュアルテキスト解剖学の教科書P225・226)						
第2週	循環器系解剖(血管の構造 教科書P226～230)						
第3週	循環器系解剖(心臓 教科書P230～237)						
第4週	循環器系解剖(全身の動静脈 教科書P238～245)						
第5週	呼吸器系解剖(鼻・咽頭・喉頭 教科書P246～251)						
第6週	呼吸器系解剖(気管・肺 教科書P252～260)						
第7週	消化器系解剖(口腔・食道・胃 教科書P262～273)						
第8週	消化器系解剖(小腸・大腸・肝臓 教科書P273～284)						
第9週	消化器系解剖(胆嚢・膵臓・腹膜 教科書P283～287)						
第10週	内分泌系解剖(副腎 教科書P295)						
第11週	泌尿器系解剖(腎臓・膀胱 教科書P299～303)						
第12週	泌尿器系解剖(尿道・生殖器 教科書P303～310)						
第13週	国家試験過去問①(内臓・血管系)						
第14週	国家試験過去問②(内臓・血管系)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1.事前に教科書を熟読し、分からない医学用語等を調べておくこと。 2.復習では、プロメテウス解剖学アトラスで各臓器の形態や各部位の名称をノートにまとめること。						



令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	社会福祉学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	社会福祉の考え方や歴史、対象者別の福祉や地域福祉などを図解や実例で学ぶ。			評価方法			
授業概要	理学療法士や作業療法士などに必須の社会福祉を協働の視点で学習する。			期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための社会福祉概論	使用器材	適時プリントを配布				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	オリエンテーション、社会福祉の意味						
第2週	日本の社会福祉の歴史						
第3週	社会保障制度と社会福祉を展開する組織						
第4週	子ども福祉・少子化対策						
第5週	障害者福祉の考え方						
第6週	高齢者福祉・高齢者を取り巻く状況						
第7週	介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性						
第8週	所得者福祉・貧困とは						
第9週	地域福祉とその推進方法						
第10週	医療福祉について						
第11週	精神保健福祉・精神障害者とは						
第12週	社会福祉施設の役割						
第13週	社会福祉を担う人々・社会福祉専門職のおもな職種と業務内容						
第14週	社会福祉における相談援助の目的と対象						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習として教科書を読み、分からない専門用語をノートに書きだして調べておくこと。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	理学療法概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	約18年の病院等での実務経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 理学療法の概要を理解する。 2 仕事の理解と内容を把握する。			評価方法			
授業概要	理学療法士としての理解を深め、実務について理解させる。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト	使用器材	PC(パワーポイント・配布資料)				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション・理学療法概論とは						
第2週	理学療法の定義と歴史						
第3週	障害の概念、ICIDHとICF						
第4週	小テスト1(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第5週	関連法律						
第6週	理学療法士の役割、倫理、診療ガイドライン I						
第7週	診療ガイドライン II						
第8週	小テスト2(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第9週	理学療法の流れ(処方・評価等)						
第10週	クリニカルパスとは						
第11週	コミュニケーション						
第12週	小テスト3(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第13週	理学療法士の働く現場						
第14週	理学療法の基本用語						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	理学療法概論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	約18年の病院等での実務経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	実際の医療現場で経験する実習に向けて理解を深める。			評価方法			
授業概要	1 理学療法の技法について理解させる。 2 理学療法の効果についてその根拠となる基本的事項を理解させる。			期末試験 60% 平常点 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト 理学療法学概論 配布資料	使用器材					
週	授 業 項 目 内 容					実施結果	
第1週	期末試験フィードバック						
第2週	リハビリテーション総論						
第3週	臨床実習とは						
第4週	記録(1):記録記載上の原則と記載方法						
第5週	記録(2):記録記載の必要項目と注意点						
第6週	記録(3):記録の運用						
第7週	記録(4):症例報告(Case Report)の書き方①						
第8週	記録(5):症例報告(Case Report)の書き方②						
第9週	小テスト1(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第10週	病院見学、臨床実習、バリアフリー、ユニバーサルデザイン						
第11週	医療保険制度、介護保険制度						
第12週	施設基準、リスク管理						
第13週	小テスト2(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第14週	感染予防						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	理学療法学演習 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で治療・検査・疾患療法経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	1 国家試験に慣れる。 2 出題形式、傾向と対策が取れるようになる。			評価方法			
授業概要	理学療法を展開するにあたり、基礎的知識や総合的に疾患を診る技術を確実に自分のものにするために研究演習を行う。			期末試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	過去の国家試験問題	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	研究法演習総論 自分の知識量の整理						
第2週	基礎解剖学 理学療法臨床応用						
第3週	基礎生理学 理学療法臨床応用						
第4週	運動学 理学療法臨床応用						
第5週	小テスト1(過去出題問題)、授業アンケート						
第6週	人間発達学 理学療法臨床応用						
第7週	病理学 理学療法臨床応用						
第8週	一般臨床医学、臨床心理学、精神医学 理学療法臨床応用						
第9週	内科・老年医学 理学療法臨床応用						
第10週	整形外科学 理学療法臨床応用						
第11週	小テスト2(過去出題問題)、授業アンケート						
第12週	小児科学 理学療法臨床応用						
第13週	リハビリテーション医学 理学療法臨床応用						
第14週	保健医療福祉 理学療法臨床応用						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	自己診断しながら問題を解いていきます。本を開く習慣を付けましょう。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	心 理 学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担 当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	基本的な心理学について学ぶ			評価方法			
授業概要	基礎心理学を一通り学習し、国家試験に出題している項目については、詳細に学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	グラフィック心理学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	心理学とは 心理学の歴史						
第3週	知覚						
第4週	記憶						
第5週	学習						
第6週	思考						
第7週	感情・動機付け						
第8週	パーソナリティ その1						
第9週	パーソナリティ その2						
第10週	パーソナリティ その3						
第11週	発達 その1						
第12週	発達 その2						
第13週	リハビリテーション心理学						
第14週	試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	臨床心理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床心理学の基礎的な概念や理論を学ぶ。 ・心理アセスメントの基本的な方法、解釈法について学ぶ。 ・心理臨床の基本的な態度、心理療法の基礎について学ぶ。			評価方法			
授業概要	国家試験の内容をふまえて重要項目を解説しながら、心理臨床にまつわる視点や心理療法について学ぶことで、将来対人援助職として他者に関わる際の一助となることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はじめて学ぶ人の臨床心理学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	臨床心理学とは(心理療法とカウンセリング)						
第2週	精神分析(理論)						
第3週	精神分析(治療とその後の諸派)						
第4週	行動療法(理論と治療)						
第5週	認知行動療法(理論と治療)						
第6週	クライアント中心療法、おさらい・まとめ						
第7週	小テスト、森田療法、内観療法						
第8週	集団精神療法、心理劇、ゲシュタルト療法						
第9週	芸術療法、絵画療法、音楽療法、箱庭療法						
第10週	遊戯療法、家族療法、動作法						
第11週	心理療法その他 おさらい・まとめ						
第12週	小テスト、様々な領域と臨床心理学						
第13週	国家試験対策						
第14週	国家試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	コミュニケーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	グループ学習を含め、コミュニケーションとは何かを学習していく			評価方法			
授業概要	自己の成長を最大のテーマとし、医療職としてのコミュニケーション力は多様化する患者のニーズに応えるために必要不可欠であり、「どんな相手でもOKのプロを目指す」社会人のマナーをはじめ、コミュニケーションスキルを身に付ける。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのためのコミュニケーション実践が1*	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	理学療法士を目指すあなたへ：養成教育は異文化教育						
第3週	心身ともに健康な医療従事者になるには						
第4週	自分を知る：性格と傾向及び態度						
第5週	見る力・聞く力・伝える力 ①						
第6週	見る力・聞く力・伝える力 ②						
第7週	見る力・聞く力・伝える力 ③						
第8週	自立した自分に：自己管理・自己実現・就職活動 ①						
第9週	自立した自分に：自己管理・自己実現・就職活動 ②						
第10週	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ①						
第11週	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ②						
第12週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：対話・ラポール						
第13週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：質問のしかた						
第14週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：対応のしかた						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	解剖学Ⅲ（感覚・神経）	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療13年経験	担当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	人体構成の基礎となる用語を学び、理学療法士になるための基礎医学の知識を修得する。			評価方法			
授業概要	人体、特に神経系・感覚器系の形態・機能・構造の概要の教育、理学療法士として理解が必要であると考えられる事項の教育。成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テストと期末テストの総合により評価する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	カラスケッチ解剖学・人体解剖学 プロメテウス解剖学アトラス	使用器材	人体骨格・脳・神経・血管模型				
週	授業項目 内容					実施結果	
第1週	神経系総論：神経系の分類・ニューロン						
第2週	脊髄・脊髄神経の構造機能 1						
第3週	脊髄・脊髄神経の構造機能 2						
第4週	脊髄・脊髄神経の構造機能 3						
第5週	脳：大脳・間脳						
第6週	脳：硬膜・くも膜・軟膜・硬膜静脈洞・小脳テント						
第7週	脳：脳室・脈絡組織・脈絡叢						
第8週	脳：大脳皮質機能局在・錐体路						
第9週	脳神経の構造と機能						
第10週	脊髄神経の構造と機能						
第11週	運動の伝導路（錐体路・錐体外路）						
第12週	感覚の伝導路						
第13週	自律神経系						
第14週	頸・腕神経叢 腰・仙骨神経叢						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。学習内容はノートでまとめ、週間ごとに提出とする。						



令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	医学英語	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	医学英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている医学用語の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。			評価方法			
授業概要	臨床で用いる医学用語の基礎と実際を学ぶ。			期末試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーションの基礎英語	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	医学英語 総論						
第2週	運動と身体						
第3週	リハビリテーション						
第4週	人体の基礎知識						
第5週	関節可動域						
第6週	骨格系・骨						
第7週	関節						
第8週	上肢筋						
第9週	下肢筋						
第10週	神経						
第11週	疾患別リハビリテーション 骨折・慢性腰痛						
第12週	疾患別リハビリテーション 関節炎・スポーツ障害・脊髄損傷						
第13週	疾患別リハビリテーション パーキンソン病・脳卒中						
第14週	疾患別リハビリテーション 慢性閉塞性肺疾患・嚥下障害						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	整形外科 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	運動器の障害に関する基礎的な理解を深めた上で、各分野ごと、それぞれの疾患について、病因、病態生理、治療法を理解する。			評価方法			
授業概要	整形外科領域における疾患について学習する。 国家試験の過去問を授業資料として取り入れる。			期末試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	整形外科学 総論						
第2週	症状と検査						
第3週	手術療法						
第4週	骨系統疾患						
第5週	骨・軟部腫瘍						
第6週	慢性関節疾患						
第7週	関節リウマチと類縁疾患						
第8週	代謝性骨疾患						
第9週	神経・筋疾患						
第10週	四肢循環障害						
第11週	腱・腱鞘等の疾患						
第12週	骨折・脱臼						
第13週	末梢神経損傷						
第14週	脊椎・脊髄損傷						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	情報・統計学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	基本的な情報処理操作、研究および統計法を理解する。			評価方法			
授業概要	統計とは何か、統計がどのように利用されるかを理解し、演算などを通じ統計的な思考方法を身につけさせる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	情報処理 総論						
第2週	情報処理 ワード						
第3週	情報処理 エクセル						
第4週	情報処理 パワーポイント						
第5週	情報処理 まとめ						
第6週	統計学 総論						
第7週	統計学 研究の流れとデータ						
第8週	統計学 1変量データの記述①						
第9週	統計学 1変量データの記述②						
第10週	統計学 1変量データの記述③						
第11週	統計学 2変量データの記述①						
第12週	統計学 2変量データの記述②						
第13週	統計学 研究法手法						
第14週	統計学 検定法手法						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、授業で実施した内容の重点事項を中心に振り返ること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	リハビリテーション概論Ⅰ （多職種連携含む）	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	リハビリテーションを正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションの理念、目的を理解した上で、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーションの組織を学ぶ。さらに、他職種連携について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学生・コメディカルのための 手引書 リハビリテーション概論	使用器材					
週	授業項目 内容					実施結果	
第1週	リハビリテーション概論 総論						
第2週	リハビリテーションの概念・理念・定義						
第3週	健康と障害の理念と分類						
第4週	国際障害分類(ICIDH)						
第5週	国際生活機能分類(ICF)						
第6週	廃用症候群						
第7週	リハビリテーション過程						
第8週	リハビリテーションの諸段階						
第9週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 理学療法士						
第10週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 作業療法士						
第11週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 言語聴覚士						
第12週	医療・リハビリテーション医療－医療機関で行うリハビリテーション治療と義肢・装具－						
第13週	高齢者・健康対策と少子化対策						
第14週	医療・福祉制度、医療法・福祉関係法規						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	リハビリテーション概論Ⅱ (地域包括ケア・自立就労支援含む)	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	リハビリテーションを正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。			評価方法			
授業概要	地域包括ケアシステムの内容、および理学療法士の役割を理解するさらに、障害別および疾患別のリハビリテーションについて学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学生・コメディカルのための 手引書 リハビリテーション概論	使用器材					
週	授業項目 内容						実施結果
第1週	リハビリテーション概論 総論						
第2週	地域包括ケアシステム						
第3週	地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割						
第4週	障害別リハビリテーション 関節拘縮と関節可動域訓練						
第5週	障害別リハビリテーション 筋力低下と筋力増強訓練						
第6週	障害別リハビリテーション 運動麻痺と神経筋再教育						
第7週	障害別リハビリテーション 運動学習の理論						
第8週	障害別リハビリテーション 異常歩行と歩行訓練						
第9週	疾患別リハビリテーション 脳卒中(急性期)						
第10週	疾患別リハビリテーション 脳卒中(回復期)						
第11週	疾患別リハビリテーション 四肢切断						
第12週	疾患別リハビリテーション 運動器疾患						
第13週	疾患別リハビリテーション 関節リウマチ						
第14週	疾患別リハビリテーション 慢性疼痛						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各臓器における構造と機能を理解し、生理学の知識を応用して理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の各器官の正常生理機能を理解する。理学療法にとって重要な器官に関しては詳細にかつ病態について学習する。また、国家試験過去問を授業資料として入れていく。			期末試験 80% 授業態度・提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学書院 標準PTOT 生理学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	生命現象と人体						
第2週	細胞の構造と機能						
第3週	神経の興奮伝導と末梢神経						
第4週	中枢神経系						
第5週	中枢神経系						
第6週	筋と骨						
第7週	筋と骨						
第8週	感覚						
第9週	感覚						
第10週	血液						
第11週	血液						
第12週	尿の生成と排泄						
第13週	尿の生成と排泄						
第14週	酸塩基平衡						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各臓器における構造と機能を理解し、生理学の知識を応用して理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の各器官の正常生理機能を理解する。理学療法にとって重要な器官に関しては、詳細にかつ病態について学習する。また、国家試験過去問を授業資料として入れていく			期末試験 80% 授業態度・提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学OT学 専門基礎分野 生理学 PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート	使用器材					
週	授 業 項 目 内 容					実施結果	
第1週	心臓と循環						
第2週	心臓と循環						
第3週	心臓と循環						
第4週	呼吸とガス運搬						
第5週	呼吸とガス運搬						
第6週	消化と吸収						
第7週	消化と吸収						
第8週	内分泌						
第9週	内分泌						
第10週	代謝と体温						
第11週	代謝と体温						
第12週	生殖と発生						
第13週	生殖と発生						
第14週	運動生理						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	保健科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	学習課題を協同学習法で解決することによって、理解力と協調性を醸成する。			評価方法			
授業概要	生理学Ⅰの補完授業とし、学習課題を協同学習法を使って解決する			期末試験 80% 授業態度・提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	生命現象と人体 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第2週	細胞の構造と機能 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第3週	神経の興奮伝導と末梢神経 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第4週	中枢神経系 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第5週	中枢神経系 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第6週	筋と骨 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第7週	筋と骨 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第8週	感覚 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第9週	感覚 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第10週	血液 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第11週	血液 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第12週	尿の生成と排泄 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第13週	尿の生成と排泄 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第14週	酸塩基平衡 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第15週	学習課題のプレゼンテーション						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						



令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	職場管理 （職業倫理・保険制度含む）	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で人事管理、院内会議等の経験有り	担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	現在の複雑な医療システムの中で、効率的かつ安全、そして経済的な医療サービスを提供するには、医療組織全体及び理学療法業務の管理・運営について熟知することが重要であることを理解する。			評価方法			
授業概要	管理・マネジメントの概念を医療及び理学療法業務へ展開し、その重要性について理解を深める。			期末試験 80% 授業態度・提出物 20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	理学療法管理学 奈良勲著	使用器材					
週	授業項目 内容					実施結果	
第1週	管理・マネジメントとは 理学療法士の視座から						
第2週	理学療法管理学とは						
第3週	理学療法士の職業倫理						
第4週	組織運営とマネジメント						
第5週	理学療法士の職場管理①						
第6週	理学療法士の職場管理②						
第7週	理学療法業務とマネジメント						
第8週	教育・研究のマネジメント						
第9週	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント①						
第10週	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント②						
第11週	疾患別・病期別の理学療法マネジメント①						
第12週	疾患別・病期別の理学療法マネジメント②						
第13週	生活期を支援する理学療法マネジメント						
第14週	理学療法を専攻する学生へのメッセージ						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	人間発達学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	小児リハビリ、疾患療法経験有り39年	担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 人間の成長課程における、発達状況の特徴を述べるができる。 2 発達段階における変化に対応するために基礎的知識の概要を習得する。			評価方法			
授業概要	人間は生涯発達する存在として捉え、生命の誕生から死に至るまでの量的、質的变化を学び、各発達段階に生じやすい発達上・健康上の問題と急速に変化した日本の社会問題への対応、解決策をも同時に学習する。			期末試験 90 提出物 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための専門基礎分野 テキスト 人間発達学	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	人間発達学概論(発達とは、発達理論)						
第2週	生命の誕生(出生前・後) 乳児期①(身体的発達) 原始反射・姿勢反射①						
第3週	原始反射・姿勢反射②						
第4週	原始反射・姿勢反射③ 乳児期②(運動的発達 その1)						
第5週	乳児期③(運動的発達 その2)						
第6週	乳児期④(運動的発達 その3、認知的発達)						
第7週	乳児期⑤(情緒・社会的発達)						
第8週	幼児期①(身体的発達、運動的発達)						
第9週	幼児期②(認知的発達、情緒・社会的発達)						
第10週	学童期						
第11週	青年期						
第12週	成人期①						
第13週	成人期②						
第14週	高齢期 死、そして受容						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	機能解剖学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で触診療法の経験有り	担当	宇都宮 咲子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 正しい骨・筋の位置を理解することができる。 2 実際の触診の場面を想定し、患者への配慮など必要な対応力を身に付ける。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢の運動器における骨・筋の位置関係を把握し、的確に触診ができる。			期末試験 60% 中間試験 40% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢・体幹)	使用器材	マーカー・テーピングテープ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の骨指標触診						
第2週	三角筋・大胸筋・棘上筋・棘下筋の触診						
第3週	小円筋・大円筋・肩甲下筋・広背筋の触診						
第4週	僧帽筋・菱形筋・肩甲挙筋・小胸筋の触診						
第5週	橈骨・尺骨・手根骨の触診						
第6週	上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋の触診						
第7週	上腕三頭筋・長掌筋・手指の筋肉の触診						
第8週	中間テスト						
第9週	上・下前腸骨棘、上後腸骨棘、坐骨結節、大転子、大腿骨頭の触診						
第10週	腸腰筋・縫工筋・大腿筋膜張筋・中臀筋の触診						
第11週	小臀筋・大臀筋・梨状筋の触診						
第12週	膝蓋骨・脛骨・腓骨・大腿四頭筋の触診						
第13週	半腱・半膜様筋・大腿二頭筋・薄筋の触診						
第14週	前脛骨筋・腓腹筋・ヒラメ筋・後脛骨筋の触診						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に該当箇所を読み、触診の手順を頭に入れてから参加すること。 2 日常的に触診を繰り返し、復習すること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部） 1年	科目名	公衆衛生	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	保健所での健康指導、自然環境の実地活動	担当	清嶋 美希	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「公衆衛生」という分野を理解し、多岐に亘るところへ活用される学問について考えを深めれるようになる。 2 自身の生活の中で身につく、統計学や公衆衛生の活用の仕方を学ぶ。			評価方法			
授業概要	公衆衛生は、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを理解し、人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを学習する。			期末試験 90% 平常点+提出物 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	分かりやすい公衆衛生	使用器材	ノートパソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	公衆衛生とは 分野・概念・利用のされ方について学ぶ。						
第2週	健康と環境 疫学的方法 一章の理解を グラフ活用していくにはを学ぶ。						
第3週	健康の指標 ① 国の単位で、公衆衛生をする場合どう活用できるかを学ぶ。						
第4週	健康の指標 ② 国の単位で、公衆衛生をする場合どう活用できるかを学ぶ。						
第5週	感染症とその予防 ① 感染について、菌の視点、免疫の視点について学ぶ。						
第6週	感染症とその予防 ② 感染について、感染経路の視点、予防について学ぶ。						
第7週	食品保健と栄養 食品の安全と味覚について学ぶ。						
第8週	生活環境の保全 ① 自然環境と摂理、それらがどう公衆衛生に関わるか学ぶ。						
第9週	生活環境の保全 ② 自然環境と摂理、それらがどう公衆衛生に関わるか学ぶ。						
第10週	医療の制度 行政における公衆衛生事業について学ぶ。						
第11週	医療の制度 地域保健活動 行政における公衆衛生事業について学ぶ。						
第12週	母子保健 学校保健 行政における公衆衛生事業について学ぶ						
第13週	生活習慣病・難病・健康教育とヘルスプロモーション 生活習慣と病の関わり、周知技術について学ぶ。						
第14週	精神保健福祉 産業保健 多岐に亘る分野での公衆衛生を通して医療について考える。						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	付随してある「整理ノート」の中の確認問題は、各自で復習しテストに向けて解いていく。						